

# 戸田市 施策評価シート

作成日	平成24年07月23日	作成次長名	森谷 精太郎	評価者名	小池 佳且
-----	-------------	-------	--------	------	-------

## 1. 施策の位置づけ <PLAN>

基本目標	03 安心して安全に暮らせるまち	中心となる課	消防本部・消防本部警防課
分野	01 消防・救急	関係課	消防本部・警防課
施策	29 救急体制の充実		消防本部・予防課
			消防・消防第1課
施策の目的	救急救命士の専門的な教育制度を充実させ、救急における市民の救命率向上を図るため、救急体制の充実を図ります。		

## 2. 施策の主な取り組み <DO>

取り組み①	普通救命講習会などの開催
取り組み②	救急救命士の育成
取り組み③	迅速かつ的確な救急搬送の実現
取り組み④	
取り組み⑤	
その他の取り組み	
その他の取り組み	

## 3. 施策の指標における成果（主な指標）<CHECK>

指標名	指標の説明 (算定式)	単位	目標値	達成値						
				H22	H23	H24	H25	H26	H27	
普通救命講習会受講者数	生産年齢人口（15歳～64歳）に対する普通救命講習会受講者数	%	20	10.4	11.6					
救急救命士資格者数	救急隊員数に対する救急救命士資格者の割合	%	100	78.1	81.3					
現場到着までの時間	救急車が覚知から現場到着するまでの時間	分	8		6.7					
その他施策の取組事項に係る成果										

## 4. 施策の展開 <ACTION>

課題	平成16年に非医療従事者による自動体外式除細動器（AED）の使用が認められ、バイスタンダー（現場に居合わせた人）による迅速な応急手当が救命率の向上に大きく寄与することが示されている。本市のバイスタンダーを養成するための普通救命講習の受講者数を見ると、前年よりは若干の増加はあるものの平成20年をピークに全体的には減少傾向である。今後、救命率の向上を図るためにも、従来の救命講習の受講者拡大に加え、新たな講習体系により導入した救命入門コース（概ね10歳以上を対象）などの受講者数を増やすことが課題である。	対応策	現在、実施している個人、団体（10名以上）を対象とした救命講習はもとより、学校、事業所、町会などの各種団体へも受講のPRを行う。 新たな講習体系により導入した救命入門コース（概ね10歳以上を対象）の受講についても各学校へ働きかけて行く。 従来、出前講習として実施していた応急手当講習で90分の講習時間が確保できる場合は、救命入門コースとして開催して行く。
----	---	-----	---

## ○結果と今後の方向性（シート作成次長記入）

進捗状況 (A 躍進中、B 予定通り、C 遅れ気味)	説明 (総評)	平成23年中の普通救命講習については1,135人が受講しており、前年に比較し38人の増加はあるものの、平成20年のピーク時と比較すると536人減少している。また、救急救命士については新規職員として2名、部内から1名の有資格者を養成した。さらに、救急車の現場到着までの時間を新たに指標に加え、迅速な現場到着及び救急搬送に努める。
B		
今後の方向性（人員/予算） (↑増加、→維持、↓削減)	説明 (人員/予算)	従来から実施している救命講習に加え、救命入門コースを市内の全小学校において実施することを目指す。また、普通救命講習Ⅲの追加、e-ラーニングの導入などに取り組み受講機会を拡大する。さらに、講習用資器材の更なる整備を進めるとともに、消防本部職員も指導を実施し職員一丸となり対応して行く。
↑		

## (評価者コメント)

これまで進めてきた普通救命講習について検証するとともに、開催方法の検討、一般市民への受講案内のピーアール等を工夫しさらに積極的に取り組んでいきたい。また、新たに導入された「救命入門コース」を小学生、中学生中心に実施し若年層への普及啓発活動も進めて行く。
--

# 戸田市 施策評価シート

作成日	平成24年07月23日	作成次長名	森谷 精太郎	評価者名	小池 佳且
-----	-------------	-------	--------	------	-------

## 5. 事務事業の検討 【一般会計】

(単位：千円)

大 事 業	中 事 業	事務事業名		事務事業評価の結果								★事務事業の方向性			H 25 予 算 額	事業費  うち 一般財源										
				H23決算額		事業 の 方 向 性	実 施 計 画 候 補	評価結果				事業 の 方 向 性	実 施 計 画 候 補	施 策 内 優 先 度			コメント									
		H24予算額		H 25 計 画 額	事業 費			施 策 へ の 貢 献 度	経 費 水 準	事 業 手 法	受 益 ・ 負 担 の 公 平 性															
		事業コード				事業内容						事業区分		事業の方向性			実施計画候補		事業の方向性		実施計画候補		事業の方向性			
08 救急業務費 (消防本部総務課)																										
	01	救急業務費		7,401	9,449	4	○	A	A	B	B	4	○	義	増加する救急需要に対応するため、継続が必要な事業である。また、他の事業と統合する。	12,200										
	01	09	01	01	08											01	01	08	01	01	08	01	01	08	01	7,022
		災害により生じた事故若しくは屋外若しくは公衆の出入り		5,343	2,635																					
	97	救急業務の向上および確立		1,041	0	9		A	B	B	B	9	終	終	当初の目標が達成したため平成23年度で終了とし、リース料については救急業務費の管理とする。	0										
	01	09	01	01	08											97	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		万一の事態が発生した際には、その場に居合わせた消防隊		0	0																					
				0	0																					
xx 救急医療機関との連絡調整事業 (消防本部総務課)																										
	00	救急医療機関との連絡調整事業		0	0	1		B	B	B	B	1	B	終		0										
	01	xx	xx	xx	xx											00	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		救急現場において心肺停止状態の患者に対し、救急救命士		0	1,317																					
				0	0																					
xx 救急訓練等指導事業 (消防本部総務課)																										
	00	救急訓練等指導事業		0	0	9		A	A	A	A	9	終	終	「応急手当の普及啓発活動の推進事業」と統合	0										
	01	xx	xx	xx	xx											00	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		普通救命講習、応急手当講習のサポート、応急手当指導員		0	0																					
				0	0																					
xx 応急手当の普及啓発活動の推進 (消防本部総務課)																										
	00	応急手当の普及啓発活動の推進		0	0	4	○	A	B	B	B	4	○	A	救急訓練等指導事業と統合し、小学生から大人まで受講対象を拡大して実施していく。	0										
	01	xx	xx	xx	xx											00	3,236	3,236	20,090	0	0	0	0	0	0	
		応急手当である心肺蘇生法やAED(自動体外式除細動器)		3,236	20,090																					
				0	0																					
計 (千円)																										
				事業費	8,442	9,449	13,755	12,200																		
				うち一般財源	8,442	4,117	8,579	7,022																		

事業の方向性： 1 現状で継続    2 拡大して継続    3 縮小して継続    4 他事業と統合    5 休止    6 その他見直し  
 7 平成25年度で終了    8 平成24年度で終了    9 平成23年度で終了